

羣書備考

十三

和書門類			
二	一	一	一
三	二	五	八
冊	架	函	號

內閣文庫	
三	一
二	八
一	六
架	三
冊	號
和書類	

內閣文庫	
番號	和 18663
冊數	23(16)
函號	218 76

類抄



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



羣書備考卷之十三

孟津抄

紫明抄

集入

河海抄

花鳥餘情

弄瓦抄

初流抄

万水一露

泚江入楚



淺草文庫

① 貞徳翁戴恩記
江永云九条輝是殿下坎山云々
植通云々
天禄乙月廿五日

新式目抄

加藤訓詁

拾遺抄

新式目抄... 加藤訓詁... 拾遺抄... 新式目抄... 加藤訓詁... 拾遺抄... 新式目抄... 加藤訓詁... 拾遺抄...

新式目抄... 加藤訓詁... 拾遺抄... 新式目抄... 加藤訓詁... 拾遺抄... 新式目抄... 加藤訓詁... 拾遺抄...

古今和歌集

古今和歌集... 古今和歌集... 古今和歌集... 古今和歌集... 古今和歌集...

古今和歌集

Handwritten text in cursive Japanese style (sōsho) on the right page. The text is written vertically from right to left. It appears to be a formal document or a letter, possibly related to the 'Shinshū' mentioned in the adjacent page. The characters are fluid and connected, typical of the cursive style.

拾一先廻り...
Handwritten text in cursive Japanese style (sōsho) on the left page. The text is written vertically from right to left. It includes the characters '拾一先廻り' at the top, followed by several lines of dense cursive script. A small circled character '七' is visible in the upper left margin.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten characters, possibly a date or a specific reference mark, located between the two pages.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

(1)

魏記山科道中記上拾芥抄書一方の五知あり書

わし候やと窺 仰不拾芥東山左府実態の作人

左府和儀の英才又つ人あり隨分

入用の心あり世本善造た註字院向あり

室の書のあり世本善造た註字院向あり

と心あり世本善造た註字院向あり

思召のあり世本善造た註字院向あり

書本のあり世本善造た註字院向あり

抄のあり世本善造た註字院向あり

昔のあり世本善造た註字院向あり

官のあり世本善造た註字院向あり

と心あり世本善造た註字院向あり

と心あり世本善造た註字院向あり

と心あり世本善造た註字院向あり

と心あり世本善造た註字院向あり

と心あり世本善造た註字院向あり

と心あり世本善造た註字院向あり

と心あり世本善造た註字院向あり

と心あり世本善造た註字院向あり

医脉開源録

山科道中抄

聖皇神代九年甲辰正月十日春候 明清の間の遠の

傳のあり世本善造た註字院向あり

人物のあり世本善造た註字院向あり

因に筆を思ふに玉脈潤海録の編集

僧傳韻

柳子唯流殿拙量百十五日後而流白草竟如法親至二三天三座主如法流言

望遠代の親玉も柳子唯流殿不の人の
一そんが英才の上骨を折るにたふ天
弟に終る事無し謂の一人の僧傳韻
書七十卷も一の精力も世に事
書の書も唐僧の文も人の韻も
不出知財も一の詩も新音も
三善提流殿の橋も流も骨も折るも
事集も事も一も

湯の火のきくは休語の人の英才
の何れも一の詩も新音も
事集も事も一も

古今和名類聚

小科道安撰

同書享保十一年丁未三月廿九日冬候 頃日編集の古今
和名類聚の持奉るに台覽不併ふに海量
の精も一の流も一の義も一の意も
の何れも一の詩も一の義も一の意も
前書も一の詩も一の義も一の意も
の何れも一の詩も一の義も一の意も
の何れも一の詩も一の義も一の意も

北越太平記

堂屋撰

曰書北越太平記... 堂屋撰書... 上杉輝虎景勝業績... 記

塩田家抄

秋行卷撰

唐澤塩田家抄

曰書塩田家抄... 觀勝寺行卷作也... 増補... 唐澤... 此作... 天文元年... 二月... 記

下学集

増補下学集

曰書下学集... 天文元年... 下学集... 増補... 寛文三年... 同重頭... 用... 故交...

丹田集

曰書丹田集... 天文元年... 植... 片... 長...

三石抄

近世奇蹟... 寛永十八年... 被...

醒睡笑

安樂卷集傳抄

新山家

阮子集

花下

月心音

雜談集

秋の歌

往尾瓦

句尾牙

若草合

裏若葉

錦繡段

三上吟

魚尾琴

心通書

新二百頁

類相子

五元集

新三百頁

復本其角括

同書元寛文元年五月十七日書
 復本其角括
 竹下一六行内又江州堅田人始迄
 其後不仕
 特
 後隱者
 嘗
 和歌連歌
 保澤
 身年二廿二頁專四身四月八日迄
 其角初身の付

七

江田抄云... 此書... 近世... 江田... 易經... 碑... 晋子... 人子... 川...
一、澤居... 二、澤居... 三、澤居... 四、澤居... 五、澤居... 六、澤居... 七、澤居... 八、澤居... 九、澤居... 十、澤居...

和為... 一、... 二、... 三、... 四、... 五、... 六、... 七、... 八、... 九、... 十、...
一、... 二、... 三、... 四、... 五、... 六、... 七、... 八、... 九、... 十、...

雅談集二卷の熟日之枯尾元七 句元身三身 若草春
一ノ九葉若葉の十解彌段の年三止吟日志 魚尾卷の十
ノ止の身 行代不詳 新二百頁 一類村子 三遺稿 五元集
四日上新三百頁 以上二十一部

水鳥記

水鳥記二卷あり梅北の自作原澤と滴合戦
の戯書一原本大師河川系あり世に流布の仲奉
二本あり一本ハ寛文二年の草紙一本ハ江永校上
本の年あり

舞西扇林

河原寄権之助抄

河原寄権之助抄の仲奉舞西扇林二冊河原寄権

之助作

多馬三郎書

本朝軍書多餘 評御三伴三國田中任人 林申務少辨
寛書一冊多賀豊後守 同書一冊淳天藏少辨道春
家記一冊 今多馬三郎書あり

難徑註疏

丹水隨筆

名古庄云迄抄

丹水子 註疏 序 堂 三 丹水先生 筆 精術 主 抄 述 三 書 願
多予 記 於 難 徑 註 疏 後 序 表 三 而 又 有 曰 隨 筆 者 若
干 卷 或 奈 明 物 理 或 考 證 筆 實 或 記 間 見 間 涉 滑 稽
也 亦 暇 日 筆 端 三 戲 也

丸

隱頭曾我物語

曾我孫實抄

無題隨筆之隱頭曾我物語と書五冊あり。康正二丙子
年初夏上旬曾我常陸入道孫實編録し序の事
あり是偽書あり近世の人の偽作あり文章の詞古
風あり一巻の書き様近世の軍談物の風あり且
又巻一二藤与伊東城城之論と一巻三藤庄司景光
の才方と又金子借用とあり中々いふ事あり
たり亦同巻に自宇盛伊藤へ床及就所望麻將三
事とあり一巻に末の百原道金三百枚とあり
とあり一巻に一巻に曾我の時代とあり
大判十判とあり分判とありの金子通用ハ此之金子通用ハ

度長つもの事也知し。金子借用道金三百枚とあり
とあり曾我十郎五郎とあり代の曾我とあり
とあり偽作ありとあり一巻に文章の
康正の比の文ありとあり又一巻に不承我
家之無廣而根藤祥感也とあり曾我物語
康正の比の文ありとあり康正の比の曾我
物語の執行とあり一巻に何れの人か執行
たると世の事也是人偽之證也

諸執日記

同書諸執日記或本長術不本言金沢孫那寺とあり
御用馬下書とあり事年一將軍家永光とあり

十

和漢珍書之或向

鶴何信無也

和漢珍書之或向 永戸廣鶴何信無著

四事大成經

佛

尊尊桂秋之四事大成經之事桂上野國建隆の潮音禪
僧也元肥前の人なり美濃の信の館林の廣海寺住職
本居大成經の事しし不肖尼不或上井建隆之轉
位の中也是等の何の聊の古の傳の事しし不肖
取之しし二部二下八卷合し七十或卷しし是古
聖徳太子の著しし是の四事本紀也しし按所
ししも子細しし傳書下極下之傳しし書しし禁
止しし中の大成經の事しし是の事しし是の事しし是の事しし

子を用何の遺留しし子しし本朝以後の俗語
聖徳太子の時代に墨邪の事しし清しし
能思しし一巻其の傳抄の證論ありしし
しし不肖の事しし

昆陽漫錄

青木敷書

無題通年之昆陽漫錄青木敷書述

和歌抄

和書三和歌抄桂秋斎門人記

聖王集

右大臣実隆公記

同書錦本抄の初より自註三朝倉孫氏門下師景衡
見聞諸家攷帳

聖旨立書寫法

同書見聞諸家攷帳と奥書立書法と二人の安藝
毛利真人の御子傳の事と其時代の故実等也

古今沿革考

後藤光忠抄

同書古今沿革考の説は栢崎永以の説と其門人後藤
光忠の書付の卷尾に貞享元年丙申三月日將明
流基輔行門人栢崎其元書於蓮井台為栢崎也
冬河後凡立記

同書冬河後凡立記二階堂松翁の書乎是身以

の文に似て居るもの

信長記

同書信長記の傳は久保長政の冬河
栢崎の事なり

海人蓬翁

同書海人蓬翁の惠命院僧正記

節用集

同書節用集文龜年中の古板あり本館書目雜字板の部に
同書二冊文龜年中あり
尚都殿頭庄宗仁作之次第仁林和靖の傳あり
朝書藉目録あり一説に惠命院僧正の非あり

異刻庭訓

同書異刻庭訓一名遊學往來と云ふは惠命作也

作

Handwritten signature

Handwritten text in cursive script, likely a preface or introduction.

大府記

Handwritten signature

Handwritten text in cursive script.

三三記

Handwritten signature

Handwritten text in cursive script.

薩戒記

Handwritten signature

Handwritten text in cursive script.

職原環翠抄

清三位宣賢卿抄

Handwritten text in cursive script, possibly a title or description.

拾芥抄

Handwritten text in cursive script, including the characters '天七地五'.

古語拾遺

齊郡廣成抄

五

曰書神代文字并成野三征按吉熟拾遺者平生天皇大同
二年二月十五日位五位下命部省津屋成蒙召向錄曰說
所上聞之書也且其人也將聞征記年高才高博涉故
矣洽究根源以有所於遺於國文家牌輯錄而榮
之故也吉熟拾遺與三史共行先賢皆以此備名藝真
為美錄所不恥古今也

新撰姓名錄

曰書曰書征按新撰姓名錄者成野天皇弘仁六年正月
廿日中務卿成野世宗成野親王奉勅所撰三史餘功無可
疑者也

朝野群載

曰書曰書征按朝野群載者鳥羽流承久四年三書為

康所錄也

江家流覽

曰書曰書征按江家流覽中成野天江正房者鳥羽流天永
二年十月廿九日自是迄中成野征三位大江雅時相
傳命和降之等也其家著以家流覽二年奉勅朝延
三式無不成野書也

日本征事疏

曰書曰書征按日本征事疏者成野征先流朝一條禪因降
余良之新撰述也成野良之者中成野遠神天兒屋命之弟
為所斬者三書許多成野可勝計也征按國長百官向流
征天下眾務庶通和降之故矣洽涉諸道三典墳表

兼俱神代略解

曰書曰字三既按事俱者伊豆下部平廣之為而其不詳
見三代美祿軍但江戶具行人各所和詳見中御門
高僧御記述任所著事俱詳記述強并抄道奏神
社名其地飛神明記行中俗解村村載年本朝嘉永
寺今不及盡記常以偽子論詐為先則其所言之不
正皆為虛妄言明矣

日本社圖卷

曰書曰字三既按日本社圖卷者不知何人之作就其書序
曰右之一卷言由家御事而論子及人雖作傳之其方
依執心者之論孫一人以中玉誓行可傳後其又雖為
直矣子息不可有也見者也實以縣立任可也則其曰
家必與之書款以此為初集則其書說可知焉此詞

元日本社圖卷之為書也以其附合之說不可勝計云

神學類編卷

貞野時經撰
○本朝神學
社下長崎

曰書曰字三既按事俱者伊豆下部平廣之為而其不詳
見三代美祿軍但江戶具行人各所和詳見中御門
高僧御記述任所著事俱詳記述強并抄道奏神
社名其地飛神明記行中俗解村村載年本朝嘉永
寺今不及盡記常以偽子論詐為先則其所言之不
正皆為虛妄言明矣

和洋同卷

神中清水

友部安掌撰

○曰書曰字三既按和洋同卷及神中清水者武藏國江府

古耕之士友部安享之作而元文年中之人也所引用之書
皆非美錄故其說至而淺渾不足證焉

神代口訣

心部正通撰

曰書曰年之正部正通者其傳不詳著神代卷之卷註狀云
神代口訣也其書卷為其人其年不正信佛書及傳
書不實是狀字則其說不可信其書之題云口訣者類律
直言象之初卷以為者況其全篇文章之杜位心部或
三精初而字虛或古語於遠同年不可證也

日御壽社記

曰書曰年之正部正通者其傳不詳著神代卷之卷註狀云
神代口訣也其書卷為其人其年不正信佛書及傳
書不實是狀字則其說不可信其書之題云口訣者類律
直言象之初卷以為者況其全篇文章之杜位心部或
三精初而字虛或古語於遠同年不可證也

寺一列之書則此書亦其社人等所記其書如何是
文證哉

和字傳來考

跡部元海撰

曰書曰年之正部正通者其傳不詳著神代卷之卷註狀云
神代口訣也其書卷為其人其年不正信佛書及傳
書不實是狀字則其說不可信其書之題云口訣者類律
直言象之初卷以為者況其全篇文章之杜位心部或
三精初而字虛或古語於遠同年不可證也

塩囊抄十卷

秋良胤撰

今朝高僧傳云秋良胤号大圓光孫大夫源賴政之為
丹州三童御人也建曆二年十一月壬辰四年五月二十

六

有教壽齡今一法隨
才之骨壘囊鈔十卷今行
於世矣

問答鈔一卷

古今指定記三卷

回指疏疑端二卷

淨土宗要三卷

一乘海義一卷

二道血脉圖一卷

研西歌章一卷

五方便一卷

秋頌意拙

白書云秋頌意字道教俗姓平氏薩洲島博人陽仁年
壬午年逾三十住境成秋迦院移住林寺未年推門嘗謂

後曰善導疏秋旅古講者多諫三見翻失真義於此是
著古今指定記三十卷略標細經屬解明晰為弘安
九年春於臺山上皇仙流予頌空法師論淨土三心
之義述同合鈔一卷平指著述有回指疏疑端淨
土宗要各三卷一乘海義二道血脉圖研西歌章五方
便各一卷嘉元二月身五月十九日寂壽五十七

十住心論付稿

即身義頌淨鈔

開藏鈔二卷

野道鈔

指心鈔

野金

三

野服

護摩鉢

大乘義卷

八識義鉢

十位心論愚州 二卷

菩提心論愚州

阿字初教 二卷

初教圖合 二卷

空論論愚州

秋論馬心行 二卷

秋賴瑜撰

曰書云秋賴瑜字俊音世姓淳氏河州那質野人上高

野山隸名傳法流後事我年康元初萬仁和寺受
 廣伏三流義正嘉九年淨高野山著十位心論愚州稿
 并即身義顯河初學僧因鉢曰須作文殊疏由
 是述初鍵鉢之用截鉢蓋初鍵是顯文殊三摩
 地故也文心改元高木禱觀音院講侍真空受初密只
 訣承具支灌頂信實諸羊章疏因屆醍醐報因院隨
 憲深僧心受十八契伴只訣金胎兩界法記其所聞述野
 道鉢指心鉢野金野胎護摩鉢淨公覽之普貴著
 改書又指木禱南院作大乘義首卷及八識義鉢等
 別勞神思健忘疾多有入示以咒印曰每持此則不忘
 也如教即修文永公年在傳法流鉢十位心論愚州三
 年十八卷明年筆記菩提心論愚州和安四年卒三撰阿

字少秋西卷多見天珠同臨風要夫士曰不過所批
向字秋秋凌空而玉女師天珠多同聖心永仁向在
根山中性流批秋向合于卷至論論議州嘉元
元年集秋論惠州十卷聖成二月朔日湛然而其事
年七十有五生隔若干前所著疏鈔一百餘卷四卷幸
餘卷矣天文初進贈僧正高

金胎曼荼羅雜鈔四卷

秋信日批

同書秋信日批州名許郡神宮人父世神官母泉州
大島官更女無正菩薩三外甥也歲辛丑任大率院德治
二年二月辛酉泊然而化作金胎曼荼羅雜鈔四卷其
餘鈔記若干卷為家學者所羅在焉

秋談論私記二卷

秋信堅批

同書秋信堅信日之同母身也嘉元初龜山山皇石宮講
秋摩訶衍論昔弘法大師奉以此論為密教所依
堅抑顯揚密義辨坑堯自心有當時維久月宣明
成通殿幅裂御袖于賜蒙頭其經卷表題秘密
藏背書云大無礙日空淨以賜寵復教錄所講之
義堅編秋談論私記二卷御覽焉未作稿多為密
字者所托要矣堅信八條之一也

戒壇院錄起二十卷

秋聖然批

同書秋聖然字道明從中道守公入真言院別傳文集

三

持戒壇院

正和元年八月十五日此書著戒壇院孫起二十卷矣

探玄記洞出鈔一百卷

華嚴五教貫取五鈔二十卷

五教章通略記二十卷

二種生義三卷

梵網香象疏日珠鈔二十卷

孔目章卷略記二十卷

十重唯識帝鑑記七卷

律宗華嚴取真心章二十卷

太子法華疏慧心光記二十卷

太子勝鬘疏詳云記二十卷

太子維摩疏卷羅記二十卷

四分律本定廣疏贊字記二十卷

律宗瓊鑑章二十卷

南山義章二十卷

淨土教海章四卷

淨土音義記二十卷

十位心論義批二十卷

十位心論鈔十七卷

佛法傳通章十卷

諸宗傳通錄二十卷

三國佛位傳通攝起三卷

表凝坐撰

三 日本書紀新編歷代不觀漢洲高橋野人仁治元年卷

三月生于藤氏... 卷一十八所寄懷著述卷秩
元棟後年多上金巡幸南都... 賜國師孫元亨... 九年九
月五日... 戒壇流報... 八十二... 臨之十三... 皇情震
悼... 廣奉... 哀然... 宏... 華... 殿天台... 真言三
論... 相... 但... 舍... 實... 律... 淨... 王... 及... 國... 史... 神... 善... 音... 樂... 科... 律
莫... 不... 該... 律... 志... 有... 疏... 欽... 探... 立... 記... 洞... 出... 涉... 一... 百... 于... 卷... 華...
嚴... 五... 教... 賢... 聖... 欽... 之... 十... 卷... 華... 嚴... 章... 通... 略... 注... 卷... 二... 卷... 二... 種
生... 義... 三... 卷... 楚... 洞... 香... 象... 疏... 日... 珠... 欽... 八... 十... 卷... 孔... 目... 章... 卷... 格
說... 于... 三... 卷... 十... 重... 准... 欽... 帝... 鑑... 記... 七... 卷... 律... 宗... 華... 嚴... 取... 真... 具
心... 章... 于... 卷... 天... 子... 法... 華... 疏... 慧... 先... 記... 五... 十... 卷... 大... 子... 勝... 聖... 疏
詳... 之... 記... 八... 十... 卷... 大... 子... 雅... 摩... 疏... 卷... 羅... 羅... 記... 四... 十... 卷... 四... 分... 律... 本

定廣疏贊字說二十卷律宗聖體章十卷南山義
章二十卷淨土教海章四卷淨土音義記二十卷十
位心論義批二十卷十位心論劄十七卷佛法傳通章
十卷諸宗傳通錄十卷三國佛位傳通錄三
卷餘難具說一代世述在有一千一百餘卷 贊曰
此師在東天日... 且... 祥... 尔... 從... 卷... 向... 曰... 見... 師... 下... 華... 書... 不... 用
筆... 文... 不... 加... 點... 鉅... 篇... 剞... 冊... 不... 日... 而... 成... 凡... 有... 世... 述... 之... 未... 詳
者... 如... 此... 豈... 不... 亦... 亦... 心... 思... 不... 已... 也... 曰... 吾... 不... 徒... 意... 也... 獨... 計... 知... 章
何... 所... 之... 有... 亦... 歎... 曰... 富... 哉... 著... 述... 古... 今... 罕... 時... 焉... 余... 子... 戒... 壇... 流
玉... 旬... 馳... 情... 親... 藏... 罕... 矣... 隨... 意... 沈... 覽... 永... 祿... 矣... 夫... 半... 奉... 及
矣... 今... 在... 府... 庫... 者... 汝... 存... 十... 一... 而... 又... 多... 在... 處... 處... 逆... 翻... 註... 復
殘... 編... 細... 觀... 顛... 末... 矣... 向... 出... 矣... 才... 也... 吁... 世... 無... 博... 雅... 臣... 子... 不... 知

有高德非笑

馬持訣

灌頂記

秋親云批

曰書云秋親之大相國通志藤公子教任僧正九年二年二月十七日此年七十四立著馬持訣灌頂記

頭密論談錄

肝心學義錄

心觀明了錄

秋省海批

曰書云秋省海持訣頭密位氣篇著頭密論談錄肝心學義錄心觀明了錄等教十卷

勸芳向勝不退門廣延冊

秋順建批

曰書云秋順建字勝曰字子賴瑜有博密之嘉元初年冬瑜召建曰吾欲作十題論科註未暇命筆今疾不起矣建我忘者非子不能廣你註疏以惠後世之豈義者子其念哉建受顧焉明年九月註改題曰勸芳向勝不退門廣延冊將年罕五其新述作法華大章教十篇門流傳存焉

猶能錄

秋照海批

曰書云秋照海字明導源廣射有房子住大牟米迎流後隨檀請移年之金剛院改額序山天子厚召宣問

三

台教賜如法衣在猶能身講三大部學者筆法成一
百卷之猶能身或曰序談今行于世矣
觀心卷序頌

教觀中法

四書是教觀中法宗亦教觀前灌谷寺住持也十八後
濱州交相說宗印受瑜如法則有宗珍僧都為住
松寺一時後碑為受宗訣中隨九日承顯密法從
神實相說密教等者觀心卷序頌焉

無量壽經鈔七卷

諸燈錄七卷

淨土經註鈔二卷

大綱鈔四卷

永觀律師十因記二卷

教道光拙

四書是教道光字了慧嘗入支那焉時名近朝也教賜歷
濟之稱永仁正安間著無量壽經鈔諸燈錄各七卷淨
土經註鈔二卷大綱鈔四卷永觀律師十因記二卷其
行于世近化年月日四記失之 贊曰余見此傳三書十
言虛少實多矣中古以來虛多實少矣至於今時附
合教道偽書實本梓印初然諸燈七卷皆實錄也乃
知光之名不虛焉

傳通記見圖十卷

述問鈔一卷

口傳鈔一卷

決疑錄

見聞論註

秋良曉撰

曰書云秋良曉字寂慧相州白旗縣人弘安二年与元明
之弟元三慶元年三月朔日悟然氣絕伏於八十法臘
年有餘矣晚著傳通記見聞十五卷述聞錄十卷
冬一為決疑錄見聞論註錄等教十卷並行于世

華嚴寺三略頌一卷

新日會品錄一卷

教道云世

曰書云秋道云稱實覺高長東大馬路終世作華嚴也
十三略頌新日會品錄冬一卷俗呼嚴華危僧天錄實

覺大年矣

歸命本願錄

西學錄

往生至要訣

秋證賢撰

曰書云秋證賢字向阿本姓海氏在州刺吏武田將國
之子官至亮祿大夫入園城寺刺深正家於湯富教宗
賢於招建淨華流為弟一廿嘗謂修淨業者異論瓜剖
門戶區別法然所立豈如此耶為真如堂慶問律陀秋證
化為二層演說淨土奧義為暖城清涼寺金殿心傳
勝相於是為疑氷解因錄可見徧得歸命本願錄
西學錄又拙住王至要訣言法然以來授受三肯後其

三

是云心以實學外善詠和歌載在新選千載集貞
和元年二月坐寂身八十脫履于成

真言傳七卷

秋采海松

曰書云秋采海松舍人藤俊業于母大江氏初住慈尊
願隨心說移高隆神護寺秋任僧正貞和元年春正
月神寺東長者 贊曰海公著真言傳七卷上自傳末
八家至諸師士庶有授之者也身行之練也者聖感者
靡不載叙也余多殊之德懷公之德蹟不存初之

教理師

纂秋三卷

秋海濬松

曰書云秋海濬松年本如不知生後姓譜元正初受檀請住
體倉梅名寺之身二年著教理師定武元年持纂
秋三卷三卷翼解華教大疏以是年卒於所住焉

秋印師 三卷

秋省靴松

曰書云秋省靴不詳名請明柳梨縣人永仁二年以上高
野山值有事故不得番高即抵下野野鶴寺學類
賴尊受三空說法流同調衣寺妙祥請聽大日
徑疏祥曰我昔心泉浦寺願行上人三招將講此疏於
東寺偶值其寂無意講久奧州如法寺有道性法師
是信日之神是寺往來為性公拒請復還下野行路
飢能往及喜突祥感至報始用講是一身畢軸

三

正安元年祥開疏於武河之唐田寺明之嚴春又心高
密嚴流之請講於湯山龍岩預聽九從祥公前後
九白思盧印文大率入于祥公謂曰此疏無欲學者病
諸公為宗之靴初所聞編三卷祥公命題名抄印
嘉元三年祥心平師三請赴鎌倉府靴回親本師覽
道以自物常福流命位無量寺流靴好靜修閑送
寺則初抄祥曰公他日還過也祥寺傳慧運流靴憶
其言定慶二年如江州中祥謁寺主亮奉旨者成慧
僧心之高才久稱鳴世冠往來十八年盡得承成嘉曆
年再治抄印成于卷觀心三年七月初日在無量
寺八十三年四年春教贈僧心于子宿陈村身行
狀焉

五教章要文集 三卷

秋後才撰

曰書皇秋後才撰十達後醍醐帝受善薩戒賜國師
稱後住鎌倉梅之文和二年十月二日謝世寺九十九有
五臘七十有云著五教章要文集三卷

五教章抄 五卷

秋盛卷撰

曰書皇秋盛卷言字明智初任及末多寺近戒壇流室
張羯磨闡示華嚴兼授密乘世梅良正也康安二
年二月二十日死於所住著五教章抄五卷

神目和亮 卷

秋慈遍撰

曰書秋慈通京師人言曰卜部兼魏子兼好弟也
弱登春奉刺髮章戒近事碩五字天之教又以世
業精神書後魏胡帝召問佛法神道帝在南
朝任大僧正通著神旨和江三卷世人玩之不詳其年
矣

廣覽集

無題隨筆云廣覽集二心以不刀不三神之作

武家系圖

堀正意撰

諸家人物心書堀正意撰云堀正意字敬夫初無藩後居湯
任武家系圖撰

今朝通鑑

曰書云人見及元字宣將名郎毛竹洞道世生姓春翁
今朝通鑑編時須修云野義卿

徑邦魚例

新井居美撰

近聞萬筆云之友五脫居沃德普詢其先人新川初元
口語語余云海白石先生生平著述三百部余疑其夥甚
德甫云先大夫為白石親炙門人每一書成任校訂或
代手書見在目睹不容疑矣蓋白石家後身不戒火
其手書沃遺書徑邦魚例類矣焚亡世既無副本
此書疑是強美錦城田元貞幹教授長曾孫世系
猶觀其家所遺先王親筆本初本教種世未及徑目及世

三

吾妻鑑

我為州持資三吾妻鑑... 論事多... 記之書... 然... 要記... 上秋... 小... 事...

楠正成

藤房全抄

正成... 楠正成... 藤房全抄...

朝定... 是邦... 正成... 藤房... 正成...

徒然草

向書... 高の仰直... 徒然草... 徒然草... 徒然草...

文徳実録

類聚

菅家集

菅家集 菅公身薨 元慶二年 文德美
錄 成代 藤原基經 作序 壬子 寛平四年 奉初 脩
類聚 七之二 卷 菅家集 二十卷

菅家集

類聚七之二

三人美錄

新撰菅家集

注卯抄

菅家文草

菅家集

菅家集

菅家文草

菅家後集

菅家集 菅公身薨 元慶二年 文德美
錄 成代 藤原基經 作序 壬子 寛平四年 奉初 脩
類聚 七之二 卷 菅家集 二十卷

菅家集 菅公身薨 元慶二年 文德美
錄 成代 藤原基經 作序 壬子 寛平四年 奉初 脩
類聚 七之二 卷 菅家集 二十卷

菅家集 菅公身薨 元慶二年 文德美
錄 成代 藤原基經 作序 壬子 寛平四年 奉初 脩
類聚 七之二 卷 菅家集 二十卷

菅家集 菅公身薨 元慶二年 文德美
錄 成代 藤原基經 作序 壬子 寛平四年 奉初 脩
類聚 七之二 卷 菅家集 二十卷

菅家集 菅公身薨 元慶二年 文德美
錄 成代 藤原基經 作序 壬子 寛平四年 奉初 脩
類聚 七之二 卷 菅家集 二十卷

菅家集 菅公身薨 元慶二年 文德美
錄 成代 藤原基經 作序 壬子 寛平四年 奉初 脩
類聚 七之二 卷 菅家集 二十卷

菅家集 菅公身薨 元慶二年 文德美
錄 成代 藤原基經 作序 壬子 寛平四年 奉初 脩
類聚 七之二 卷 菅家集 二十卷

菅家集 菅公身薨 元慶二年 文德美
錄 成代 藤原基經 作序 壬子 寛平四年 奉初 脩
類聚 七之二 卷 菅家集 二十卷

菅家集 菅公身薨 元慶二年 文德美
錄 成代 藤原基經 作序 壬子 寛平四年 奉初 脩
類聚 七之二 卷 菅家集 二十卷

菅家集 菅公身薨 元慶二年 文德美
錄 成代 藤原基經 作序 壬子 寛平四年 奉初 脩
類聚 七之二 卷 菅家集 二十卷

菅家集 菅公身薨 元慶二年 文德美
錄 成代 藤原基經 作序 壬子 寛平四年 奉初 脩
類聚 七之二 卷 菅家集 二十卷

及浦寒鳥自故林不遺風月不遺金且成四七箱中卷
何年再三陛下吟犬馬微情又手表冰霜御製遍身
及恩草父祖無涯岸誰道秋來海水深

此詩文集... 之失... 介平有並
... 爲... 偏集... 今の
又草... 無遺... 又...
... 寛平四年... 十月十日... 二百卷...
... 奏進... 又三...
... 編... 三... 法...
... 外新... 法...
... 又... 十卷...
... 天... 州...

又菅家御集一卷... 平生の... 集...
... 文... 奏... 詩... 集... 後
... 美...

後... 今... 法... 明...
... 仁... 書... 月... 録... 情...
... 夫...

老子是云
五經註

④ 金溪雜語 西川書入 湯成 三南 瑪珠 外小奇 好小辨
伊藤長堅撰

ありて承るる老子是正書の如く世に在る人申す
老聃之人の如きことありて庄子の言に老子は
人なりて一なる如くありて詠歌の如くありて
たゞ人なる奇の如くありて人の如くありて
有りてありて又蘭瑪の如くありて
ありてありて

韻鏡古義標註

河野春宮撰

磨光韻鏡

了蓮寺無相撰

曰書中の韻鏡は元来師の述すことありて河野春宮の述す
事無相上人の述すことありて粗音韻の鏡とありて春

宮の韻鏡は古義標註との外に切符の初次字余條
ありて無相の磨光韻鏡と著しありて著作の書は
部多の如くありて是の如くありて是の如くありて
音韻の流るる僻ありて大方の字有るありて
如くありて有る用念の如くありて後前ありて
い未書ありてありて定不保ありて好ありてありて
重倚韻鏡

瑞蓮寺撰

曰書に無相の門人不瑞蓮寺の如くありて韻の如くありて
重倚韻鏡の如くありて定不保の如くありて
ありてありてありてありてありてありて

新安手簡

日本國領海軍書院

古文通

藩翰譜

証史餘論

東雅

本朝軍書

新井君美拙

懸新錄

官拙

日書書入元治三錦軍門人達の才學もよく也此中中書
中書中書の志も中書もよく也此中中書
中書もよく也此中中書もよく也此中中書

了了門外中白若多也藩翰譜清法又餘編東
雅軍書等皆有用の書也此中中書もよく也
の學問も亦新中書もよく也此中中書もよく也
此中中書もよく也此中中書もよく也此中中書
法律の事も亦新中書もよく也此中中書もよく也
此中中書もよく也此中中書もよく也此中中書
此中中書もよく也此中中書もよく也此中中書
此中中書もよく也此中中書もよく也此中中書

集道和書

集道外書

大學或問

能天了齊拙

得の意に皇位義疏の事... 記す... 松子の
沈... 記す...

度量書

秋生双松撰

同書書入... 御殿... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...

同書書入... 御殿... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...

恒高文集

同書書入... 御殿... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...
御書... 御子... 御用... 二八年... 賞... 也... 記...

精猷遺言

一



天
一
河
川
大
神
社

同書之書如流の神は若くは浅見安正の如くは王定
の書に懐くは精猷遺言等の書に安正の書に懐くは
多量の書に懐くは海城の書に懐くは安正の書に懐くは
多量の書に懐くは海城の書に懐くは安正の書に懐くは
多量の書に懐くは海城の書に懐くは安正の書に懐くは

論語玉振錄

谷
川
大
神
社

同書之書如流の神は若くは浅見安正の如くは王定
の書に懐くは精猷遺言等の書に安正の書に懐くは
多量の書に懐くは海城の書に懐くは安正の書に懐くは
多量の書に懐くは海城の書に懐くは安正の書に懐くは
多量の書に懐くは海城の書に懐くは安正の書に懐くは

